

地域人材ネット

農家蔵保存・利活用と グリーン・ツーリズム事業の定着拡充で地域活性化

佐藤 正彦 (さとう まさひこ)
農業生産法人 株式会社グリーンファーム農家蔵 代表取締役



○ 登録者情報

所在地

青森県平川市

略歴

青森県ふるさと食品振興人材バンク登録

グリーン・ツーリズムコーディネーター（財団法人都市農山漁村交流活性化機構）

○ 農家蔵保存・利活用とグリーン・ツーリズム事業の定着拡充で地域活性化

取組の内容

当地域に334棟現存する蔵を地域資源として再評価し、「蔵保存利活用とグリーン・ツーリズム(GT)事業推進基盤の確立と事業の定着拡充」を指標に、2002年1月に当促進会を設立し、03年8月にNPO法人となる。蔵マップや会報蔵ジャーナル発刊・蔵農家庭園ウォチング&収穫体験開催・蔵巡り・庭園巡り開催・冬のツーリズム尾上農家蔵物語開催・ファームステイ受入農家組織構築・修学旅行農作業体験ファームステイ受入・セカンドスクールの受入・民宿営業許可登録推進・国登録有形文化財指定推進・農家蔵ブランド商標登録及び商工業者連携商品開発販売などの事業に取り組み、「農家蔵のまち」「G・Tのまち」全国ブランド確立を目指し活動中。また、平川・青森市(浪岡地域)のG・T事業推進団体に構成する広域ネットワークを構築し、同ファームステイを「食農教育・心の教育」の一環として受入れる。津軽G・T事業の定着拡充のため、教育旅行誘致活動やG・Tインストラクターセミナー開催・農村丸ごとキャンペーン実施など攻めのG・T事業を展開し、本県G・T事業の本拠地「平川市」と認知され、県内一の実績確保と受入組織の構築を図り、受入農家の経営力向上と地域農業・農村維持発展に寄与。

実績

- ①平川市金屋地区に現存する78棟の農家蔵内、40棟を国登録有形文化財指定申請し、青森県一(88棟)の文化財指定地区になった。
- ②2004年5月に津軽地区で本格的な修学旅行農作業体験ファームステイを受入れ、延べ65校約9,000人を受入れ(2012年度は受入16校2,000人確定)。
- ③農家蔵・農家庭園という地域資源を活用した「蔵巡り・庭園巡り」開催し、年間2,000人参加者確保。
- ④同文化財農家蔵・蔵並通りのライトアップ「冬のツーリズム尾上農家蔵物語」を企画。商工会青年部連携事業に発展し、冬の観光イベントとして定着拡充。
- ⑤農家蔵ブランド商標登録に伴う商工業者・地元加工グループ等連携での商品開発を展開中。
- ⑥ファームステイ受入定着拡充で地域農業振興と、引率者宿泊施設・温泉施設・商工業者の売上げに寄与。
- ⑦団体として(財)都市農山漁村交流活性化機構主催第3回「むらの伝統文化顕彰」農村振興局長賞・総務省主催2004年度「地域づくり総務大臣表彰」地域振興部門・2005年度「オーライ！ニッポン大賞」審査委員長賞・全国地域づくり誌コンテスト優秀賞受賞や農林水産省主催2006年度「立ち上がる農山漁村」選定・2010年「総務大臣団体表彰」など全国的に評価され、「農家蔵のまち」「グリーン・ツーリズムのまち」として産声をあげた。



蔵巡り・庭園巡り(町商工会との共催)

工夫した点や苦労した点

農家蔵が密集した見慣れた農村風景を再評価し、何処にもない地域資源として蔵所有者や地域住民・行政などと価値観の共有実現に苦労した。

「蔵・農家庭園巡り&ブドウ・苺・りんご・花木収穫体験」などのイベント企画や同ファームステイ受入など通し、町外・県外の来訪者へ「農家蔵のまち・GTのまち」をアピール。マスコミに取材依頼し、その活動がメディアに大きく取り上げられた効果がパブリシティとなった。

ひとことPR

弘前大学・八戸工業大学・NPO法人・GT推進団体・旅行会社・行政・商工会等多方面にわたる連携で、農家蔵の保存利活用とG・T事業を推進してきた。現在、まだ発展途上であるが、これまでの経験を多くの方に伝え、地域活性化に取り組んで行きたいと考えている。



地域案内人養成講座(学生対象の蔵ガイド養成)

○ 参考

取組の分類

地域人材ネットでは、登録者の取組を11の政策分野に分類しています(複数の分野に該当するものもあります)。

	1	地域経営改革	7	まちなか再生
○	2	地場産品発掘・ブランド化	8	若者自立支援
	3	少子化対策	9	安心・安全なまちづくり
	4	企業立地促進	10	環境保全
	5	定住促進	11	その他
○	6	観光振興・交流		

関連ホームページ

NPO法人尾上蔵保存利活用促進会	http://www4.ocn.ne.jp/~kura-334/
------------------	---

戻る